

それぞれの思いを胸に 小・中・義務教育学校入学式



4月8日、市内の小・中・義務教育学校で入学式が行われました。2023年4月に開校する義務教育学校金峰学園に統合される阿多小学校・田布施小学校・金峰中学校では最後の入学式となりました。田布施小学校では、本市の入学式では慣例となったランドセルを背負った17名の新生が緊張した様子ながらも笑顔で入場すると、在校生代表として6年生の室屋潤奈さんが「田布施小学校の最後の1年間、楽しい思



い出を一緒に作りましょう」と歓迎しました。

新入生17名を迎えた大笠中学校では、在校生を代表して3年生の清水実弥子さんが「校訓である自主・協力・健康・未来の4点鐘を胸に、伝統を守りながら一緒に新しい大笠中を創り上げましょう」と挨拶すると、新入生を代表して有留蓮さんが「自分を磨き、仲間と友情を育み、人の痛みが分かり支え合える人間として成長していきたい」と誓いの言葉を述べました。

新入教職員宣誓式



4月14日、市内の小・中・義務教育学校へ新しく赴任した教職員60名の宣誓式が万世特攻平和祈念館会議室で行われました。加世田中学校の重久直姫教諭（新規採用）が宣誓書を読み上げ、加世田小学校の貴島宏明校長が「豊かな自然や文化、歴史を生かした教育活動で児童・生徒に真剣に向き合い、自分のふるさとを大切に、未来を切り拓く子どもたちを育成することに全力で取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

平和を願い続ける



4月10日、万世特攻平和祈念館前の慰霊碑「よろずよに」前において、万世特攻慰霊碑慰霊祭が開催され、旧隊員やその遺族など約150人が参列しました。若者を代表して、坊津学園9年生の松元法香さんは「戦争について、後世に伝え平和を尊び、願いを続けていく使命があります。自分の命、他人の命、かけがえのない命を大切に、守り続けていきます」と、この地を飛び立った201柱の御霊に誓いました。